ともに伸びる馬室っ子　～あせがきらきら馬室っ子～

馬室小だより

令和5年１２月１日
１２月号
鴻巣市立馬室小学校
☎　５４１－０５７８

心に残る本との出会いを
～ 馬室小 秋の読書月間 ～

校長　齋地　満

校内音楽会では、たくさんの方々にお越しいただき、ありがとうございました。観客を前にしての発表に、馬室っ子は少し緊張ぎみでしたが、演奏後の充実した表情から、実施できてよかったと、安堵することができました。あいさつでもお話しましたが、馬室っ子は、歌が好きで上手です。練習も進んで取り組む様子が見られ、本番でも成果を遺憾なく発揮することができました。鑑賞いただいた学校評議員の皆様からも「どの学年の演奏も素晴らしく、レベルの高さに感心しました。」とのおほめの言葉をたくさんいただきました。また、自分の演奏はもちろん、他学年の演奏も大事にしている態度も立派でした。学校目標である「ともに伸びる馬室っ子」を実感できたすばらしい音楽会となりました。

さて、馬室っ子図書だよりでお伝えした「秋の読書月間」も終盤を迎えました。そこで、「木を植えた男」という本を紹介します。絵本なのですが、フランスの作家ジャン・ジオノの短編小説で、高学年でも楽しめる内容です。約５０ページと短く、３０分ほどで読むことができます。同作のアニメは、アカデミー短編アニメ賞を受賞しました。

物語は、旅をしていた若者が、荒野で一人暮らしをしている寡黙な初老の男に出会うところから始まります。男の名はブフィエ、住む人の心がすさむほど荒れ果てた土地を蘇らせようと思い立ち、毎日毎日１００粒のどんぐりを植え続けていました。すでに３年間で１０万個の種を植え、そのうち根づいたものが１万本ほど・・・。そうやって、不毛の地に生命の種を植え付けていました。５年の歳月を戦場で過ごした若者が、再び男を訪ねると、荒野を覆うようにナラの林がありました。戦争という、途方もない破壊をもたらす人間が、一方では、偉業を成し遂げていたのです。その後もブフィエは幾多の挫折にあいますが、くじけることなく、一人で木を植え続けます。やがて歳月が流れ、いつしか林は広大な森となり、干上がった川に水が戻ります。さびれた廃墟の村には人々が集まり、楽しく希望あふれる生活ができるようになります。しかし、彼らはブフィエの存在も、一人の男が森を再生したことも知りません。名誉も報酬も求めない、人びとのことを思いやる優れた行いは、長い年月をかけて確かな証として地上にしるされ、のちの人々にあまねく恵みをほどこしたのです。信念をもってやり遂げることは大変です。しかし、充実した日々と達成感は、成長とともに人生を豊かにしてくれます。鴻巣市の図書館にありますので、機会があれば、手に取ってご覧になってください。（本校では、文庫本があります。）セカンドブック事業で本を受け取った１年生は大喜びでした。子供は本が好きです。読書は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにしてくれます。また、人生をより深く生きる力を身に付けていくことができます。

秋も深まり、冬休みが近くなってきました。
心に残る本と出会えますように・・・

ジャン・ジオノ　原作　寺岡　襄 訳
フレデリック・バック 絵　あすなろ書房